



QRコードを読み取り、ホームページ
を見ることができます。スマイル附属情
報を様々な発信中です！

令和3年度 附属小学校だより

スマイルふぞく



第9号 令和3年12月24日（金） 校長 古野 祐一

今年の漢字は「光」！

10月12日（火）から始まった2学期前期が終わりました。各学級では、何ができるようになったか、何ができていないのか、2学期後期は何を変えれば更に成長するのか、といった振り返りを行い締めくくっています。

終業式では、今年を表す漢字一文字の話をしました。私が選んだ今年の漢字は「光」です。コロナウイルスによって、悩んだり苦勞したりと辛いこともありましたが、一つずつ皆で乗り越えていくと、明るく過ごせることが改めて良く分かりました。スマイル附属の「あきらめない力」が益々強くなって、様々な取組に希望の「光」が差し込んできたことを感じたからです。頭を働かせ、新しい考え方や、やり方を工夫してきた我が子と一緒に、家族で選ぶ今年の漢字で、この1年を振り返ってみてはいかがでしょうか。そして、新しい年を迎えても、「一歩前へ、何度も挑戦！」で楽しんでいきましょう。



長縄大会で元気に跳んでいく1年生。



長縄大会を終えた6年生が勢揃い。

かけがえのない今を彩る言葉！

この冬休みは、日本の伝統文化を味わう素敵な季節です。年の瀬には家族の健康に感謝し、年の始めには新しい年の目標を語り合うことで各々の成長を実感できます。決して巻き戻せない家族の今がどれだけ貴重なものか、10年前の今を思い返したり、10年先から今を見つめてみたりするのも、この季節ならではの楽しみ方です。「あの時、もっとこうしておけばよかった」とならない今にしていきましょう。



伝統野菜の調理の仕方を学ぶ3年生。

あるお母さんは、子どもが帰宅すると優しく抱きかかえ、「頑張った匂いがする」と言葉をかけていたそうです。この子は大人になっても思い出す母の言葉として大切にしているとのこと。こうした忘れられない贈り物でクリスマスを迎え、御家族で良い年をお迎えください。



ヤギが、北斗の子の仲間入りです。

令和4年も北斗の子が各自の取り柄を発見し自覚できるように、スマイル溢れる日常の幸せを大切にしていきます。引き続き御理解・御協力を賜りますようお願いいたします。

※裏面に続きます！

エンノシタノチカラモチ

バカゲタという下駄を履き、エンノシタノチカラモチという餅を食べ、カンニンブクロという袋を腹に巻いて、世を渡ると間違いない。

これは、今から900年ほど前に「西行」という歌人が言った言葉です。バカゲタとは、周りの人から何と思われようが気にしないこと。エンノシタノチカラモチとは、『縁の下の力持ち』と書き、目立たないところで人のために苦労したり、手助けをしたりすること。カンニンブクロを腹に巻くとは、腹が立つことがあっても、ぐっと我慢をするということだと捉えています。

使う人のためにシューズをそろえる子、理科の授業後に椅子をそろえる子、トイレのスリッパをそろえる子、廊下や教室のごみを拾う子がいます。まさに「エンノシタノチカラモチ」になって、人のために動く北斗の子を、私はたくさん見付けることができました。

世のため、人のために動くことができる北斗の子を見逃さず、価値付けすることで、自信をもって善いことを進んで行う北斗の子。そのような北斗の子を、2022年も全職員ではぐくんでいきます。

教頭 松永 知大

満点？

以前、部活を指導していた際、試合の振り返りとして「反省会」を開いていたことがあります。しかし、指導を重ねるごとにその反省会は、見直す必要があると気付いていきました。それは、反省会では「ここがだめだった。」「ここを直さない。」等とマイナスの言葉が飛び交っていたからです。しかも考え方が、「100点満点から引き算で物事を考える」ようになったのです。そこで実践したことがプラス会議です。「自分はこの部分を頑張ればまだ伸びる。」「あの人はこの部分が優れているからそこを頑張ろう。」等とプラスに物事を話し合うようにしたのです。すると、「満点を決めず、たし算で物事を考える」ようになり、自然と結果がついてくるようになりました。

さて、2021年も終わりを迎えました。3月のゴールに向けて、御家族で「たし算で物事を考える」プラス会議はいかがでしょう。

主幹教諭 池田 一幸

もういくつねるとお正月

幼少の頃、年末は正月準備のために買い出しへ出かけ、あとはゆっくり家族と過ごす。町の様子も違っていました。商店はどこもシャッターが降り正月休み。車もほとんど通っていませんでした。時代が進み年末年始はずいぶん様変わりしましたが、子どもにとっては、いつもの正月の姿です。

しかし、変わらない姿もあります。家族と共に大掃除、家族と共に初詣、親戚が集まり新年の御挨拶。家族と共に心を尽くして準備をし、親戚皆で新しい年を迎える喜びを味わう。ここに大きな意味があります。子どもが所属する社会の中で一番の土台は家庭です。家族がそろう場だからこそ、きっとそこには、自分に対する思いや願いについて深く考えるきっかけや、立場・役割を自覚する機会があるはずです。

「私は〇〇家の子」そこに喜びを感じる年末年始をお子様と共にお過ごしください。

教務主任 橋田 晶拓